

あいのその 2025 年 4 月号



「あなたがたが、私の名によって何かを

願うならば、父はお与えになる」

(ヨハネによる福音書 16 章 23 節)



愛の園保育園 042-325-1045

ご入園、ご進級おめでとうございます。

今年の 4 月スタートは、気温も低くまだ冬物のコートが必要？と思う肌寒さとなりましたね。毎年、春は、神様がとお与えくださった自然の恵みに感謝したい気持ちになりますが、今年は少しゆっくりペースでこれから春の恵みをお子さん達と一緒に楽しめることと思います。

今年は、21 名の新入園児のお子さんを迎えて 2025 年度がスタートしました。今年度は定員変更をおこない、0 歳児を 9 名、1 歳児を 24 名に変更いたしました。0 歳児クラスをつぼみ組、1 歳児クラスは 14 名のたんぽぽ組うさぎグループと 10 名をたんぽぽ組ひよこグループといたします。

新しいクラス、新しい先生達に最初は、戸惑われることも多いかもしれませんが、お子さんひとりひとりが保育園で安心して過ごせるように不安な思いに寄り添いながら遊びや生活環境を整え、安心して預けていただけるように頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、昨年度も園舎建て替え工事についてのご理解、ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。いよいよ 6 月頃には新しい 2 歳クラスとホールに引っ越す予定です。その後、旧園舎を取り壊し、園庭・駐車場・駐輪場の整備をおこなっていき 2026 年度 6 月頃が完成予定となります。

まだもう少しご不便をおかけ致しますが、今後ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

新しい年度を迎えて、期待と不安が入り混じって、時にはあわただしく過ごすこともあるかもしれませんが、神様の助けが、私たちと共にあることへの感謝をもって一日一日を大切に過ごしていきたいと思っております。

(園長 名取 知子)

あいのその 2025 年 5 月号



「初めに、神は天地を創造された。」（創世記 1 章 1 節）

愛の園保育園 042-325-1045

聖書は「初めに、神は天地を創造された」という言葉で始まります。前書きも導入の部分も無く、そこに当然のように神がいて天地を創造された、というのです。改めて考えてみると、これはなかなか不思議ではないでしょうか。神とは何か、どういう姿でどのような性格でどこにいるのか。どうやったらそれを証明できるのか・・・そんな根拠も理由も何も記さず、何の前ぶれもなくこのように告げているからです。しかし聖書はこの一文によって、この全体がどういう書であるのかということを明確に告げています。それは、この世界の始めから終わりまで、そのすべてを、神が明確な理由をもって支配しているということを聖書は語ろうとしているのだということです。

聖書を読むうえで誤った二通りの読み方があります。ひとつは、聖書の言葉を絶対とする読み方です。キリスト教における超保守的なグループの人々は、聖書とは神が語ったことを人間がそのまま書いたと信じるがゆえに、それに矛盾するかに見える科学的な説明（地球の誕生の経緯や人間の進化論など）を徹底的に否定します。進化論が正しいかどうかは別として、そのような理解は一見、とても熱心な信仰心のように見えて、実は脆いものではないでしょうか。自分の中の疑いを排除して成り立っているわけですから、もしも聖書に書いてあることがそのまま起こったのではないということが証明されれば、途端に信仰そのものを失うことになりかねないからです。そしてまた、もうひとつ、それとは逆の誤った読み方があります。それは、これを単なる古代人の神話や幻想物語、空想物語と片付けて、なんでもかんでも合理的に理解しようとする読み方です。聖書は科学の教科書ではありません。地球や生命体の誕生に期限について自然科学は説明をしてくれますが、それが「なぜ」「何のためにか」ということに対して説明することはできません。しかし、私たちがもっとも説明してほしいのは、この「なぜ」「何のために」ということではないでしょうか。

そんな私たちに対して聖書が告げるのが、神がそのようにしたからである、ということなのです。そして、旧・新約聖書を合わせて読み進めていくうちに次第に明らかになってくるのは、それはただ神の愛ゆえなのだ、ということです。神は創造したあらゆるものに対して「良しとされた」と創世記は語ります。つまり逆説的に、神は徹底的に人間のことを愛してくださっている、守り、導いてくださっている、良しとしてくださっている、だからこそ、その神が、人間も、この世界のすべても創造したのだ、と理解し、その始まりの言葉がこの聖句なのです。

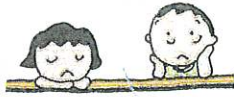
今日の私たちが生きている世界は、神がこの世界を創られたということを見え、否定し、一笑に付すような力に取り囲まれています。誰もが、自分が支配者になろうとする。だからこそ私たちは「初めに神は、天地を創造された」という言葉に、立ち返りたいと思うのです。

（牧師 西脇 正之）

あいのその 2025 年 6 月号



「水が顔を映すように、心は人を映す。」（箴言 27 章 19 節）



愛の園保育園 042-325-1045

今からちょうど 20 年前の 2005 年 6 月に公開された映画『バットマンビギンズ』の中に次のような台詞があります。

"It's not who I am underneath, but what I do that defines me."

訳者によって翻訳に様々な違いがあるのですが、僕が一番しっくりきたのは、日本語吹き替え版の「人の心はわからない。でも本性は行動に出る」という訳です。これがどのような状況で誰から発せられた言葉であるかということは紙面の都合上ここでは割愛しますが、とても胸に刺さる台詞です。未見の方はぜひ本編でご確認ください。

今月の聖句は旧約聖書の「箴言」という文書の中のひとつですが、これはことわざや格言のような言葉が集められたものです。そういった知恵や知識をもって具体的な問題に対処することのできた人はその時代、賢者と呼ばれていました。そしてこの箇所で言われているのは、顔を見ればその人の心がわかるということです。私たちはポーカーフェイスを装っても、つい表情に思いが出てしまうということがあります。また、相手の表情を見ることで、その人の今の感情や態度を推し量ることがあります。顔は笑っていても目が全然笑っていない人もいますし、愛想笑いが苦手でいつも仏頂面な人もいます（僕自身、他人からよくそのように指摘されます）。人間同士でさえそうなのですから、ましてやすべてをご存じである神は、人間の心の奥底、その人自身では気づかないようなことであっても、完全に知り尽くしているのだということです。

かつて賢者に「神の言葉や神の心はどこにあるのか？」という質問をした人がありました。それに対して賢者は「それはあなたの口、あなたの心の中にある」と答えたといいます。私たち自身から出る言葉や態度、思い、すなわち他者への優しさや思いやりや愛こそが神の思いそのものであり、神は私たちの行いや言葉を通してこそ自らを顕してくださいということです。

私たちには他人の心はなかなかわかりません。顔で単純に判断できそうだと思っても、全然違っていたということもあります。でも、人の本性は行動に出るという言葉を思うとき、それが神の思いに適うことであれば、それはとても素敵なことではないでしょうか。

（牧師 西脇 正之）